

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

郵便振替 02240-5-102650

《再処理 / 岩手の環境》

<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

止めよう!

《再処理》

《天恵の海》

2009 (平成 21) 年

2月 23日

第 67 号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

上映運動の体験と情報を共有し 「六カ所市民サミット・プログラム」発進



六カ所村ラプソディー 東日本市民サミット(盛岡)
「高レベル廃棄物・燃え尽きた
釜でも「放射能放出規制法」議論を!

岩手からの訴えに
共感の声

映画「六カ所村ラプソディー」を通じて、核燃再処理について問題意識を持った市民が一堂に会した、東日本市民サミットは、一月七・八日に、盛岡市内、共済ビルで開催されました。大分県から北海道まで予想を大幅に超える約一七〇人が参加し、放射能から命を守るため、今、私達はどうか「よいか」を話しあいました。主催した市民グループは、ホームページやメール、グリスノなど連絡を取り合いながら五回に渡る実行委員会を開き、綿密な準備を重ね、集会を成功に導きました。会場には若者の姿が目立ち、参加した市民達が「しゃべり場」や「アクションプラン」・「全体会」に参加し、自分の置かれた状況や地域の実態を熱く語り、今後の方策を話し合いました。

ここから一歩を踏み出そう

広瀬剛史実行委員長

主催者を代表して、「わかめの会」の広瀬剛史さんが「私達は「六カ所村ラプソディー」に関わって、命を守るために再処理を止めたい」という気持ちを抱きました。一人一人がそれを言葉とし、それをネットワークで繋げ、形のある運動にするための一歩を踏み出そう」と挨拶しました。

「六カ所」は自分の問題

鎌仲ひとみ監督挨拶

映画を制作した鎌仲ひとみ監督は、「六カ所再処理工場の問題は「ストッブさせればそれで終わり」というような単純な問題ではありません。今、私は瀬戸内海の祝島とスウェーデンで取材しながら「ミツバチの羽音と地球の回転」という映画を作り始めました。自然の循環にかなった、安心して生きて行ける社会への

新しいビジョンを市民自身が創り出せるのかという問題と考えています。今日は楽しく語り合いました。」と挨拶しました。六カ所工場は

危険な状況にある

永田文夫さん報告

「岩手の会」世話人の永田文夫さんは、「六カ所工場は今、本当に心配な状況にある。これまでに総計約五五三〇人分の急性致死量に相当するトリチウムが海に流されました。高レベル放射性廃液「ガラス溶融炉」は設計の致命的欠陥を克服出来ず、攪拌棒が曲がったり、耐火レンガがはがれたり、ダウンの状態です。

何よりも心配なのは

「高レベル放射性廃液」を工場内に二四〇立方メートル溜めてしまった事です。そばによっただけで人を死に至らしめる危険な液体が、一月九日以来、コンクリートのセル(小部屋)内に一五〇メートル配管から流れ出ている二週間も気づかないでいたという事態が発覚しました。回収できたのは一六リットル、水分や揮発性物質は蒸発し、その他はセル内にこびりついて残ったといえます。タンクに蓄積された二四〇立方メートルの廃液

にはチエルノブイリで放出された約九倍のセシウムが含まれています。昨年五月には直下活断層説が発表されました。高レベル放射性廃液について絶対に環境へ出さないことを求める運動が重要で「と報告しました。

参加者みなで

「しゃべり場」

「六カ所ラプソディー」の自主上映はすでに全国で八〇九回、五万三五〇〇人が鑑賞したと報告されました。鎌仲監督を交えて会場から登壇した七人が語り合う「しゃべり場」が二回行われました。

「小さな上映会」も

いいもんだ

先ず、三陸の宮古・山田では「六ラプ」上映会により「再処理と海」の問題を知った漁民・市民が「豊かな海を守る運動」を広げるきっかけになった、という話題や、愛知県での百回を超える「お茶会映画会」の経験、東京の主婦の上映会で、少人数の集まりだったからこそ本音が語られ「六ラプカード」づくりが始まった、などの面白い話題が次々に語られ会場を沸かせました。

岩手の会提起 アクションプラン2

高レベル廃液安全対策全国署名

完璧な耐震防災を訴え 全国で署名運動を！



「岩手の会」は、アクションプラン2として、高レベル廃液安全対策全国署名運動を提起しました。全体会や分科会で「既にセル内漏えい事故が起きている。全国にこの危険な実態を訴え、完璧な耐震・漏えい防災対策を要求し、創意ある署名運動をやる」と確認されました。

水めがね



「高レベル放射性廃液」の防災

一月三〇日、日本原燃は「九日以来セル内に漏れていた高レベル廃液は当初発表の二一リットルではなく一五〇リットルである」と訂正した。「廃液の濃度はセシウム¹³⁷が一六〇億ベクレル／リットル」との報道も蒸発して濃くなった液の数値であった。だから、今回やっと発表されたタンク

内の廃液の「セシウム濃度は三六億ベクレル／リットル（報告書）で計算し直すと、漏れた放射線量は「広島」の死の灰の約五倍、「工場タンク内全体量（二四〇立方メートル）」はチエルノブイリ事故での放出の約九倍」ということになり、最初の計算の四分の一くらいになる。それにしても驚くべき数値である。蒸発したのは

危険な放射性廃液について報道が不十分
「アクションプラン2」分科会には北海道から京都までの一九人が参加し意見を交換しました。
提起した岩手の会では「ミニコミ通信」で再処理工場の危険な実態について広報して来しました。
一月二二日発表の「高レベル廃液セル内漏えい事故」について、岩手のマスコミは小さくしか報道していませんが、実態は本当に深刻です。このような危険な「高レベル放射性廃液」を作ってしまったところで「ガラス溶融炉の停止状態」に至りました。この危険な廃液を絶対に環境に漏らさないように、「十重二十重の安全対策を要求する」広報と署名をやる」と確認されました。しかし、「高レベル放射性廃液」の危険性については、科学知識も要求され、前回の「海に、空に放射能を流さないで」の署名のように一般の人には簡単に受け入れられないのではないかいという意見が出されました。
出席者みなで、広報や署名について、多様な方策を出しあいました。
多様な方法で取り組もう
。「高レベル廃液蓄積」は最初から予想されていたが現実になると、日本は地震国であり本心に心配である。前回の署名は、廃液で被害を受ける三陸の人々の党派を超えた請願や署名の提起であったので全国から反響があった。
。「高レベル廃液が漏れれば先ず危ない青森、岩手、北海道、宮城が提起し、全国の各地から多様な方法で呼応するのがよい等の意見が出されました。
確認されたことは、六カ所再処理工場に現在、超危険な高レベル放射性廃液が蓄積されている事実を広く伝え、完璧な「廃液漏洩防止・耐震強化」と、「住民避難対策」などを要求し一大キャンペーンを行い多様な形で署名

運動を展開しようということでした。

△主体会△

■「アクションプラン」■

他の三つの「アクションプラン」も討議されました。
「グリーンエネルギー政策大綱（仮称）」では、グリーンエネルギーへの転換に向け環境への負荷の少ない持続可能な社会への提言が語られ、「再処理データバンクづくり」では、すでに私達が手にしている沢山のデータが市民が相互に利用できるシステムづくりをしよう」と話し合われ、「みんなで出るキャンペーン」では、「全国サンパチーム」や「三陸訪問エコツアー」などの構想が語られました。
。「豊かな三陸の海を守る会」の「放射能海洋放出規制法（仮称）」制定請願が岩手県内三五十町村中三三議会で採択されたという実践が紹介され、自分の場所でもやりたいので請願の仕方など具体的に知りたいなどの意見も出されました。
盛岡宣言採択
閉会集会では「六ラプ市民サミット・プログラム」推進を確認し、「盛岡宣言」が採択されました。また、「高レベル放射性廃液漏洩事故への抗議文」も採択されました。